

令和 6 年 5 月 22 日現在

機関番号：37129

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K10844

研究課題名（和文）口腔医療におけるプラダーウィリー症候群の移行医療に関する看護師の役割と機能

研究課題名（英文）The role and function of nurses on transitional care for Prader-Willi Syndrome in oral health care

研究代表者

飯野 英親（Iino, Hidechika）

福岡看護大学・看護学部・教授

研究者番号：20284276

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：プラダー・ウィリー症候群児(PWS)の口腔健康を目指して、外来の口腔ケア・医療におけるトランジション移行医療を適切に支援するために、PWSを養育する養育者が希望する外来における看護師の役割について調査研究を実施した。

対象の養育者は、母親5人、父親2人、平均年齢：53±4.8歳、現在も就業中の人4人、専業主婦3人。

PWS児の養育者が回答した語りの内容を分析した結果、看護師に期待される役割は【PWSの疾患特徴に基づき児の主体性を支える】、【看護師間、看護師と医師間で情報を共有して情報を歯科診療支援へ生かす】【外来診療での児の安全を守る】の3カテゴリーに分類できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

PWS児が歯科診療を経験する際に、養育者が過去の受診経験から看護師に期待している役割が明らかになった。この結果を基に、PWS児にケアする外来看護師が準備した方が良い学習内容、継続教育に有益となる。

研究成果の概要（英文）：In pursuit of enhancing oral health among individuals with Prader-Willi Syndrome (PWS) and facilitating a seamless transition in outpatient oral care and medical support, a research investigation was conducted to explore the role of nurses in outpatient settings as desired by caregivers nurturing individuals with PWS.

The participants comprised five mothers and two fathers, with an average age of 53 ± 4.8 years, among whom four were currently employed and three were full-time homemakers.

Analysis of the narratives provided by caregivers of individuals with PWS revealed three categories encapsulating the roles anticipated of nurses: 'Supporting the autonomy of children based on the disease characteristics of PWS' 'Sharing information among nurses and between nurses and physicians to integrate information into dental care support' and 'Ensuring the safety of children during outpatient consultations'.

研究分野：小児看護学

キーワード：プラダーウィリー症候群 養育者 口腔ケア

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2020年に小児科外来における染色体異常であるプラダーウィリー症候群(Prader-Willi Syndrome; 以下、PWSと略す)のトランジション・ケアプログラムを作成後、その研究成果は日本小児内分泌学会主催の「Meet the Specialist PWS」で小児科医師を対象にPWSトランジション・ケアプログラムを報告するまで認知された。その小児科外来におけるケアプログラムを定める過程で、PWSの疾患特有の際限のない過食、唾液分泌減少、性格・行動問題を起因とする口腔衛生管理の困難さを報告した。具体的には、幼少期から過食が始まり成長に伴ってう蝕率が高く、歯周病、口内炎といった口腔内の炎症性疾患有病率が顕著だった。他の研究から、PWSの約25%は過食による肥満・糖尿病を伴い(村上、最新医学、2019)、口腔衛生管理が不十分なため生じるう蝕や歯周病は血糖コントロールを悪化させやすく(Teeuw WJ., et al, Diabetes Care, 2010)、動脈硬化の増悪因子になる(Humphrey LL., et al, J Gen Intern Med, 2008)ことが明らかになっていた。

PWSは疾患特有の理解力や特有な性格を考慮すると、一般的な紙面や口頭での指導によるトランジションケアの実施は困難であり、PWSの成長過程に合わせた独自の歯科口腔医療におけるトランジション計画によって看護介入しなくてはならないと判断した。研究開始当初は、PWS児を小児科外来、小児歯科外来でケアする看護師を対象とした介入を計画していたが、Covid-19感染症が5類へ移行した後に、調査対象病院における外来看護師のPWSへのケア経験者が非常に少なく、PWSとの関わりもほとんどないことが調査の依頼段階で確認でき、急遽調査対象者はPWS児の養育者とし、主たる養育者が期待する小児科外来で勤務する看護師に期待するトランジションに合わせた口腔へのケアについて調査した。

2. 研究目的

本研究の目的は、PWSを有する児の口腔健康を目指して、外来の口腔ケア・医療におけるトランジション(移行)医療を適切に支援するために、PWSを養育する養育者が希望する外来における看護師の役割について明らかにすることである。

3. 研究方法

主に福岡県・山口県内に在住するPWS児を養育する7名の養育者を対象に、外来における口腔ケアの受診状況、外来看護師に希望するケア、役割についてインタビュー調査を実施した。得られた回答は逐語録をもとにカテゴリーに分類した。その後、看護実践能力別で外来看護師に求められるケア内容を分析した。看護実践能力のカテゴリーは、既報に従って「計画・連携・評価」、「専門職開発」、「リーダーシップ」、「精神的ケア」、「援助的コミュニケーション」の5カテゴリー一使って分類した。

4. 研究成果

対象の養育者は、母親5人、父親2人、平均年齢: 53 ± 4.8 歳、現在も就業中の人4人、専業主婦3人。トランジションの類型は、日本小児科学会の「小児期発症疾患を有する患者の移行期医療に関する提言, 2014.」をもとに分類した。対象者8名について、1型「完全に成人診療科に移行している(移行する)」、2型「小児科と成人診療科の両方に受診している(受診する)」、3型「小児科だけに継続して受診している(受診する)」の3類型に区分した。1型パターン4/7人(57.1%)、2型2/7人(28.6%)、3型1/7人(14.3%)の状況だった。療育センター等の障害児歯科を受診経験者は6/7人(85.8%)だった。また、う蝕予防目的のフッ化物塗布者は6/7人(85.8%)だった。

PWS児の養育者が回答した語りの内容を分析した結果、「8つのサブカテゴリー」【3つのカテゴリー】に分類できた。1つ目は【PWSの疾患特徴に基づき児の主体性を支える】でサブカテゴリーは「PWS児の不機嫌になった後の頑固さを理解する」、「PWS児が診察を頑張っている努力を認める」、「PWS児と養育者の心情に配慮し、寄り添いながら児の行動を歯科診療に促す」の3つだった。2つ目は【看護師間、看護師と医師間で情報を共有して情報を歯科診療支援へ生かす】で「PWS児の外来での言動を観察する」、「PWS児と養育者の様子を観察する」、「受診日の児と養育者の様子について外来看護師間、歯科医師、歯科衛生士と情報を共有する」のサブカテゴリーは3つであった。3つ目は【外来診療での児の安全を守る】でサブカテゴリーは「PWS児の歯科治療・処置が安全に実施できるよう、声かけを頻回に行いながら不安を軽減させる」、「診察台への上り下り時に転倒しないように留意する」2つであった。

カテゴリー	サブカテゴリー	看護実践能力
PWS の疾患・性格特徴に基づき児の主体性を支える	PWS 児の不機嫌になった後の頑固さを理解する	PWS の理解を深める (専門職開発)
	PWS 児が診察を頑張っている努力を認める	PWS 児と養育者への声かけ (援助的コミュニケーション)
	PWS 児と養育者の心情に配慮し、寄り添いながら児の行動を歯科診療に促す	PWS 児と養育者への声かけ (援助的コミュニケーション)
看護師間、看護師と医師間で情報を共有して情報を歯科診療支援へ生かす	PWS 児の外来での言動を観察する	ケア計画のための情報収集 (計画・連携・評価)
	PWS 児と養育者の様子を観察する	ケア計画のための情報収集 (計画・連携・評価)
	受診日の児と養育者の様子について外来看護師間、歯科医師、歯科衛生士と情報を共有する	医療者間での連携 (計画・連携・評価) 看護師を中心に情報共有 (リーダーシップ)
外来診療での児の安全を守る	PWS 児の歯科治療・処置が安全に実施できるよう、声かけを頻回に行いながら不安を軽減させる	不安を軽減させる (精神的ケア)
	診察台への上り下り時に転倒しないように留意する	安全な診療環境の提供 (計画・連携・評価)

これらの結果は、看護実践力のカテゴリーと比較すると、受診に来た PWS 児と養育者に対する「精神的ケア」、外来受診場面における情報収集を兼ねた「援助的コミュニケーション」、医療者間での情報共有を基にした援助の連携に関する「計画・連携・評価」、PWS の疾患がもたらす PWS の行動特徴、性格的特徴の理解に関する「専門職開発」、医療者間の情報共有を図る看護師の行動としての「リーダーシップ」と、看護実践能力の全てのカテゴリーに関して包含していた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Satoru Haresaku, Keiko Kubota, Rie Yoshida, Hisae Aoki, Fuyuko Nakashima, Hidechika Iino, Souhei Uchida, Mami Miyazono, Toru Naito	4. 巻 85
2. 論文標題 Effect of Multi-Professional Education on the Perceptions and Awareness of Oral Health Care among Undergraduate Nursing Students in a Nursing School	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Dental Education	6. 最初と最後の頁 786-793
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/jdd.12558	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Haresaku T, Kubota K, Yoshida R, Aoki H, Nakashima F, Iino H, Uchida S, Miyazono M, Naito T	4. 巻 21
2. 論文標題 Comparison of attitudes, awareness, and perceptions regarding oral healthcare between dental and nursing students before and after oral healthcare education	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Oral Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12903-021-01554-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 窪田 恵子、晴佐久 悟、飯野 英親 他
2. 発表標題 看護学士課程における口腔ケア教育・研究の深化・発展を考える
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会 交流集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 工藤広太郎、上野ふじ美、青野広子、飯野英親、晴佐久 悟
2. 発表標題 大学病院小児対象病棟に勤務する看護師の口腔ケア・口腔ケア教育の実態に関する調査
3. 学会等名 日本小児看護学会第33回学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	青野 広子 (Aono Hiroko) (50733870)	福岡看護大学・看護学部・講師 (37129)	
研究 分担者	中村 加奈子 (Nakamura Kanako) (90584516)	福岡女学院看護大学・看護学部・准教授 (37126)	
研究 分担者	永野 英美 (Nagano Emi) (00946668)	福岡看護大学・看護学部・助手 (37129)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------